

母親が感じる育児上の「困難」に関する研究(6)

— 縦断的調査によるまとめ —

窪 龍 子

実践女子大学人間社会学部

井 狩 芳 子

和泉短期大学児童福祉学科

I. 問題と目的

表題の研究テーマを掲げて、2007年12月に茨城県下妻市のT保育園、横浜市のN幼稚園の保護者を対象として調査を開始した。354名から得られた結果を踏まえて、園児の年齢による変化を調査する必要性を認識し、2008年7月から2011年3月まで4回にわたって縦断的調査を行ってきた。対象園は同じであり、回答者数は延べ348名に及んだ。そのうち4回とも回答が得られたのは23名である。今回は、その23名について2年半の変化を検証することとした。

1. 鯨岡の述べる育児上の課題

本論文の第1報において、鯨岡(2002)の説を引用した。人間は多様な両義性(自己矛盾性)を抱えた社会的存在であり、育児においても例外ではないという。それが最も顕著に現れるのは、子どもの要求と親の子どもに対する要求がぶつかり合う場面である。親は子どもに「あなたはあなたらしくあれ」と言いつつ「あなたはみんなの中の一員であれ」とも言う。つまり、子どもの主体性と社会性のバランスをどうとるのが難しいのである。

今日では、子どもも大人も自己の欲求を充足することが最も幸せなことで錯覚しているので、子どもの主体性をありのままに受け入れようとする一方で、親はより良い子どもであってほしいと社会的なしつけをしようとする。その両義的対応を迫られると混乱して、マニュアルがほしくなるが、育児は楽しめなくなる。親は出産が計画的に行われるように育児もそのようにできると思い込んでいるところがあるし、社会が求める価値観に引きずられ、メディアが発信する明りだけの子どものイメージに惑わされる。子どもに、より良く、より早い発達を求める。人は誰でも負の状態に陥ることがあるものだが、子どもがそのような状態になった時には待つしかなく、それまでの原因を見つけて早期に解決するという効率を優先する方法は通じない。また、父親は、母親と同じようには育児に関わっていないことを実感する時には苛立ちが生じる。さらに、社会や文化は時代の流れとともに変化してゆくので、親子の間に価値観のずれをもたらす。

解決法として、鯨岡は以下のように述べている。

子どもは育てられながら自ら育ち、親はそれを受け止めることによって育てることを実現させる。自己犠牲のように見えるが、自分を子どもに与えることによって、子どもがいなければ体験できない喜びを体験できる。自分の欲求を後回しにすることで、親としての自覚と責任感が生まれる。子どもが負の状態の時には、子どもの気持ちを受け止め、子どもに寄り添うことで人間的な強さが生まれる。育児に完璧を求めない。「ほどよい」ところで十分と分ることが親としての成熟である。

2. これまでの調査結果

これまでの調査において、多くの母親は育児上のさまざまな困難に出会うが、特に困難や苦勞を感じないという母親もいることが判明した。その回答者を「苦勞なし群」とし、苦勞を感じる回答者を「苦勞あり群」として、調査結果を比較検討してきた。その結果、次のようなことが導き出された。

(1) 第1報（調査対象は年少児～年長児）

苦勞なし群には、子どもに早寝早起きの生活習慣が身につけていることと、戸外遊びが多い傾向がみられた。

(2) 第2報（調査は年少組7月）

苦勞なし群の背景には、母親に職業なし、対象児が第2子以降、核家族、一戸建てに住んでいるという条件がみられた。また、子どもには早寝早起きの傾向があった。

苦勞なし群が育児上で大切にしていることは、「健康であればよい」「友達と仲良く」「親子の気持ちが通じ合う」など、鯨岡のいう主体性育成が多かったが、苦勞あり群のそれは「のんびり」がモットーと言いながら、社会性の育成である「友達と仲良く」「園で先生や友達とうまくやる」「自主的になれるよう意思表示ができる」などの他に、「親子の気持ちが通じ合う」「健康であればよい」など多くを求めている。

親自身の苦勞は、「自由時間が取れないこと」「子どもが思い通りになってくれないこと」「頼れる場所や人が少ないこと」「キャリアをあきらめたこと」などがあつた。つまり、親自身の欲求が満たされないこと、思い通りに事を進められないことがあげられていた。一方、見ず知らずの他人から労わられたり助けってもらったりして、まわりにも育ててもらっているという信念を持った時に苦勞感を軽減させていた。

(3) 第3報（調査は年少組2月）

苦勞なし群は、「健康であればよい」「親子の気持ちが通じ合う」を大切に、しっかりしつけていることは「知人に挨拶」「家庭内で挨拶」「食事のマナー」「就寝時間」「歯磨き」など主体性育成が中心であった。さらに睡眠は、早寝早起きで平日と休日の起床時刻・就寝時刻一致度も高かった。子どもが泣いたときは、「抱っこ」で対応していた。

苦勞あり群は、社会性の「自主的な意思表示」が第一で、「健康であればよい」「親子の気持ちが通じ合う」と続く。しっかりしつけるのは、「歯磨き」の他は「いじわるをしない」「知人に

挨拶」と、社会性育成が多かった。睡眠は、平日は早起き遅寝である。平日と休日との一致度は低い。子どもが泣いたときは、「言葉かけ」「機嫌を取る」という対応であった。苦勞あり群の親は、平日は早起き遅寝であり、休日は遅起き遅寝である。睡眠時間は短い。

子どもの自主性を尊重したいが、親の望むようであってほしいという両義性の悩みおよび睡眠時間の短さに苦勞の種がみえた。

(4) 第4報（調査は年中組 2010年3月）

苦勞なし群は、育児で大切にしたいことが急増していた。「健康であればよい」「親子の気持ちを通じ合う」「生活のリズムをつける」の主体性育成とともに「自主的な意思表示」「友達と仲良くする」「園で先生や友達とうまくやる」など社会性育成が増えたのである。しっかりしつけることにおいても「いじわるをしない」「食事のマナー」「歯磨き」など社会性育成が増えていた。1年前と比べると、苦勞あり群よりも項目数が多くなっていた。しつけが強化され始めたと言えよう。さらに機嫌が悪い時の対応は、「言葉かけ」「機嫌を取る」が1年前の3倍となり、言葉で説得できると判断したものと思われる。反対に、苦勞あり群では機嫌が悪い時の対応は、「言葉かけ」「機嫌を取る」が減少していた。

親の起床時刻は、全体に1年前より早くなっていた。苦勞なし群は6時台に集中し、苦勞あり群は6時台が中心だが、それより早くにも遅くにもばらばらであり、睡眠のリズムが確立しているとは言い難かった。

(5) 第5報（調査は年長組 3月）

「特に苦勞はない」とする回答者が増加した。その要因は、子どもの成長、家事育児に適度な手抜きが必要と悟ったこと、育児観の変化があげられる。

一方、しつけが必要であるとする回答が70%を超えた。しっかりしつけは「食事のマナー」が第一となり、苦勞なし群では「歯磨き」「知人に挨拶」が続き、苦勞あり群は、「いじわるをしない」「歯磨き」「知人に挨拶」が続いた。

育児で大切なことは、両群とも「自主的な意思表示」が第一であり、「生活リズム」「友だちと仲良くする」「健康であればよい」と続いた。

「親の言う事を聞かない」ことが苦勞の種であっても、「親の言う事を聞く素直さ」を育児上で大切なこととして求める回答は少ない。意識としては、子どもの主体性を大事にしようとするが、日常の生活場面では、つつい親の要求すなわち社会性を優先してしまいがちであるとみることができる。

子どもの睡眠時間は平均10時間で、ほぼ確保されている。苦勞あり群の子どもは、平日早起きで、休日遅起きの傾向がみられた。親の睡眠リズムも、苦勞あり群は平日早起き遅寝、休日は遅起き遅寝で、子どもと同じ傾向がみられた。

3. 本論文における研究目的

先述したように、第2回から第5回の調査をとおして、4回とも調査結果が得られたのは23名であった。その23名の調査データを改めて縦断的につなぎ、母親の育児に関する苦勞感を生

じさせる要因が何であるのか、次のような視点から検証する。

- ① 子どもの主体性と社会性の両義性に悩まされているのかどうか。
- ② 育児に関して母親自身の思い通りに事が運ばないという焦燥感があるのかどうか。
- ③ 母親自身の欲求を子どものそれよりも後回しにすることができているのかどうか。自由時間がないという拘束感があるのかどうか。
- ④ 母親の育児に夫の協力、周りからのサポートは得られているのかどうか。
- ⑤ 母親自身の睡眠のリズムはどうか。

II. 調査の概要

1. 調査対象園

茨城県下妻市にあるT保育園と神奈川県横浜市の住宅街にあるN幼稚園。

2. 調査方法

これまで5回にわたって調査を行ってきたが、縦断的方法をとった第2回以降の4回すべてに回答のあった対象者のデータを選別し読み直した。これまでの量的なデータ処理だけでは見えてこなかった育児に対する個人の思いや状況を探った。

3. 調査時期

第1回：2008年7月、対象児は年少組

第2回：2009年2月、対象児は年少組

第3回：2010年3月、対象児は年中組

第4回：2011年3月、対象児は年長組

4. 各回の回答者数における調査対象者数とその割合

第1回：T保育園回答者数 19名中 10名 (52.6%)

N幼稚園回答者数 70名中 13名 (18.6%)

第2回：T保育園回答者数 23名中 10名 (43.5%)

N幼稚園回答者数 66名中 13名 (19.7%)

第3回：T保育園回答者数 35名中 10名 (28.6%)

N幼稚園回答者数 67名中 13名 (19.4%)

第4回：T保育園回答者数 13名中 10名 (76.9%)

N幼稚園回答者数 55名中 13名 (23.6%)

Ⅲ. 調査結果

1. 23名の事例内容

特に自由記述を中心に23名のデータを読み返した結果は、次のとおりであった。今回は保育園と幼稚園の結果を分けて集計している。子どもの状況については成長を喜ぶプラスの記述は簡潔にまとめ、生活のリズムに関する記述やマイナスの記述はできるだけ原文どおりとした。なお、母親の年齢は第1回の調査時のものであり、事例番号の後のTは保育園を表し、Nは幼稚園を表している。一重の下線は育児の苦労感に関連しているもので、二重線はその軽減に寄与していると思われる事柄である。

(1) 事例1 T：母親27歳、子ども2人（男1人女1人）、対象児は第1子男児、仕事あり。

① 子どもの状況：

第1回；活発になった。

第2回；さらに活発になり、意欲がみえる。風邪をひかなくなった。笑顔がうれしい。

第3回；食欲が増した。行動が遅い時はカウントダウンで乗せる。

第4回；妹の面倒をよくみる。

② 親の状況：

第1回；育児は夫と半々で担当し納得。育児で頼りにしたのは夫。祖父母の考え方は古い。母乳と布おむつで育てたのに、「今の人はいいね」などという。

第2回；育児は夫と半々で担当し納得。育児の苦労感はその場その場でやり過ごす、趣味で癒す、親に預ける、仕事をする、ネットで情報を得るなどで対処。

第3回；しつけは指針がなければ子どもが困るので必要。子どもの目に余る行動でも他人が怒らないのは問題。

第4回；しつけは子どもの基準では良いこと悪いことの判断ができないので必要。家事は手抜きをしている、無理をしない。

(2) 事例2 T：母親37歳、子ども5人（男2人女3人）、対象児は第5子女児、仕事あり。

① 子どもの状況：

第3回；子どもの小さな成長でも常にうれしい。

第4回；自分より下の子に優しくなった。できることがふえるとうれしい。

② 親の状況：

第1回；主たる育児担当で納得。子どもの生活時間を大人のペースに巻き込まないようにしている。早寝早起き朝ごはんを心掛けている。

第2回；主たる育児担当で納得。

第3回；しつけは挨拶・マナーなどは必要。

(3) 事例3 T：母親37歳、子ども2人（男女の双子）、対象児は第1子女児、仕事あり。

① 子どもの状況：

第1回；自分のことを一人でするようになった。体をよく動かし、熟睡している。

第2回；風邪をひかなくなった。「大好き」と言ってくれ、姉弟の仲が良い時はうれしい。

第3回；風邪をひかなくなり健康になった。

第4回；楽しそうに遊んでいる時がうれしい。

② 親の状況：

第1回；育児は夫と半々で担当し納得。夫の休日出勤がなくなり退社時間が早くなれば子どもといる時間を確保できる。育児で頼りにしたのは実母。

第2回；主たる育児担当者が納得。育児上の苦労感は父母・兄弟姉妹・友人知人に話す、寝て食べてマッサージに行つて気分転換、先輩ママ友のアドバイスで知識を得るなどで対処。

第3回；しつけは必要。子どもが病気の時でも仕事を休めない。祖父母に協力要請。

第4回；しつけの必要性は時と場合による。祖父母に手伝ってもらう。

(4) 事例4 T：母親41歳、子ども3人（男2人女1人）、対象児は第2子男児、仕事あり。

① 子どもの状況：

第1回；友達ができ食欲が増し、できることが増える成長がうれしい。

第2回；21時半ごろ寝ても寝起きが悪い。ある日試してみたら11時近くにやっと起きてきてスッキリした状態だった。夜はぐっすり眠っているが睡眠の質が悪いのか、良質の睡眠がとれるか成長した時のことが心配。母や妹が風邪をひいたりすると優しい言葉をかけてくれてうれしい。

第3回；朝早めに起こすようにすると夜尿が減った。成長がみられるとうれしい。

第4回；身体は丈夫になった。

② 親の状況：

第1回；主たる養育者で時々納得できない。夫の帰宅時間が早くなり、土日でも休んでもらえるとよい。

第2回；主たる養育者で時々納得できない。育児上の苦労感はその場その場でしのぐ、父母・義父母・兄弟姉妹・友人に話す、友人とおしゃべりで気分転換、子どもに八つ当たりをするなどで対処。

第3回；しつけは他人に迷惑をかけないように、少しずつ社会のルールを覚えさせるために必要。時間に追われ、せかせかしてしまう。

第4回；しつけは善悪をしっかりと教えるために必要。育児の苦労感や友達と食事、ママ友とおしゃべりで対処。

(5) 事例5 T：母親36歳、子ども3人（女3人）、対象児は第2子、仕事あり。

① 子どもの状況：

第4回；子どもの機嫌が悪い時は、ありとあらゆる手段を使う。笑顔がうれしい。

② 親の状況：

第1回；主たる育児者で納得。本や保育士を頼っている。私も自分の子どもで初めて子どもに関わったが、子どもと関わりを持たない人が多く、関心もないのか冷たい視

線を感じることがある。

第2回；主たる育児者で納得。子どもの時間と社会の時間にギャップがあるためか子どもに合わせると社会から取り残されたように感じる。もっと女性が子育てに喜び幸福を感じられる世の中になるよう願う。

第3回；しつけは必要。

第4回；しつけは必要。

(6) 事例6 T：母親29歳、子どもは2人（女2人）、対象児は第1子、仕事あり。

① 子どもの状況：

第1回；保育園で食事をするようになって排便が順調。成長がうれしい。よいことも悪いことも覚えた。

第2回；下の子の面倒をよく見る。自己主張が強すぎて苦勞。休日は昼寝をしない。病気をしにくくなった。短気になったような気がする。

第3回；食欲が増し休日は昼寝をしない。我慢しすぎてイライラしたり泣いたりする。花粉症。優しい気持ちや言葉を持っていてうれしい。

第4回；パズルや絵描きに集中できる。良くも悪くもウソをつく時がある。友達と喧嘩ができるようになった。毎日楽しく過ごせていることがうれしい。

② 親の状況：

第1回；育児は夫と半々で担当し納得。育児で頼りにしたのは夫。

第2回；育児は夫と半々で担当し納得。育児の苦勞感は父母・友人知人・保育者に話す、本・保育者から知識を得るなどして対処。

第3回；しつけは善悪を教えないとだめなので必要。育児の苦勞感は両親や夫の協力を得る、友人知人の意見を聞くことで対処。少子化で小学校に1クラスしかなく6年間同じ子だけで過ごすのはどうかと思うことがある。しからない親が多く、やりたい放題でマナーがない子が多い。

第4回；しつけの必要性は時と場合による。子どもの食のことは無理をせず徐々に増やして対処。少子化のため1クラスで6年間、しかも女子が多いので仲良くやってゆけるか不安。自分で思っていることが言えるか。

(7) 事例7 T：母親32歳、子ども1人（女1人）、対象児は第1子、仕事あり年長組の時なし。

① 子どもの状況：

第1回；風邪をひきにくくなった。一人遊びが減り親と遊ぼうといい、お手伝いをしたいというようになった。

第2回；食欲が出てきた。何にでも興味を示すようになった。

第3回；食欲が出てきた。友達と遊べるようになった。

第4回；食欲が出ていた。病気になりにくくなった。日々の成長がうれしい。

② 親の状況：

第1回；育児は夫と半々で担当し納得。育児で頼りにしたのは夫。

第2回；育児は夫と半々で担当し納得。育児の苦労感は夫・父母に話すことで対処。

第3回；しつけの必要性は時と場合による。人にやってよいことといけないことの区別が
つかなくなってしまう。育児はあわてず気長にやっていいと思うようにしている。

第4回；しつけの必要性は時と場合によるが、してはいけないことの区別がつかなくなる。
仕事と育児の両立を頑張り過ぎないように程々にしている。

(8) 事例8 T：母親34歳、子ども2人（女2人）、対象児は第2子、仕事あり。

① 子どもの状況：

第1回；言葉が遅かったが入園して会話ができるようになった。

第2回；全体的に落ち着いた。話を聞けるようになった。

第3回；保育園のことを話してくれる。できることが増えるとうれしい。

② 親の状況：

第1回；育児は夫と半々で担当し納得。

第2回；主たる育児者で納得。育児の苦労感は夫・父母・ママ友に話す、寝て気分転換を
図ることで対処。

第3回；しつけは挨拶などできないとためなので必要。

第4回；しつけの必要性は時と場合による。女の子なのに男の子とばかり遊んでいて小学
校で大丈夫かと思う。女子が団体になると怖い。

(9) 事例9 T：母親41歳、子ども1人（女1人）、対象児は第1子、仕事あり。

① 子どもの状況：

第1回；生活のリズムができてきて寝かしつけが楽になった。食欲が出て好き嫌いも減っ
た。体調を崩すことも多く休みがちだった。友達との間に嫌なことがあるとイラ
イラしてわがままを言ったり物に当たったりする。

第2回；ぐずって泣くことが減り落ち着いた。集中力がついた。一人遊びをする。文字に
興味をもち手紙を書いてくれてうれしい。以前よりはよいが寝つきが悪い。布団
に横になり電気を消すようにしている。

第3回；一人遊びが増え工夫して遊ぶ。絵本を自分で読む。食欲が増した。落ち着きが出て
きた。発熱の回数が減った。大人の会話を聞いて質問することが増えた。明るく
元気な子に成長していること、手紙をくれるのがうれしい。

第4回；病気にかかりにくくなった。感動したり可哀そうに思ったりすると涙する。

② 親の状況：

第1回；主たる育児者で納得。歯みがきなどをさせようと言うことをきかず、なか
なか前に進まないことや、わがままに泣いている時にどうすればよいのか悩む。
将来、友達や周りの人とうまくやっっていけるのか苛めなど不安。育児で頼りにし
たのは友人・実母。

第2回；主たる育児者で時々納得できない。育児の苦労感は父母・ママ友に話す、寝て気
分転換を図ることで対処。

第3回；しつげは挨拶や我慢をすることなど社会に出て困らないよう基本的なことは必要。育児の苦労感は努力してもうまくいかないのでストレスをためないように友人に相談している。

第4回；しつげは大人になってから困らないように一般的なことは身に付ける必要がある。小学生になって早寝早起きができるようになるか不安。

(10) 事例 10T：母親 39 歳、子ども 2 人（男 1 人女 1 人）、対象児は第 2 子女児、仕事あり。

① 子どもの状況：

第 1 回；「大丈夫？」などと声をかけたり、自分の意見をはっきり言うようになった。

第 2 回；「お花きれい」とか女の子らしさが出てきた。「風邪治った？」と聞くなど優しさが出てきた。新しい場所のトイレに行きたがらない。

第 3 回；休日も平日と同じ時間に起きるようになった。料理を手伝い、「ママ大好き」といってくれるとうれしい。

第 4 回；発熱が減り、熱が出てもすぐ下がるようになった。疲れていると「元氣ないね」と心配してくれてうれしい。

② 親の状況：

第 1 回；育児は夫と半々で担当し納得。育児で頼りにしたのは夫。外で安心して遊べる世の中になってほしい。

第 2 回；主たる育児者で時々納得できない。育児の苦労感は夫・友人に話す、趣味で気分転換を図るなどで対処。

第 3 回；しつげは集団生活社会に出るために必要。育児の苦労感は話を聞いてもらうことで対処。

第 4 回；しつげは集団生活のために必要。小学校に入学するので起床時刻・就寝時刻をもう少し早くしたい。

(11) 事例 11N：母親 36 歳、子ども 2 人（男 2 人）、対象児は第 2 子、仕事は第 2 回調査時よりあり。

① 子どもの状況：

第 1 回；疲れるのか寝る時間が早くなった。少し喘息がひどくなった。

第 2 回；軽い喘息があり入園当初は体調が悪い日が多かったが現在は安定。淋しいことや辛いことを母親だけに話してくれるとうれしい。7歳と4歳のそれぞれの年齢に合った対応が大変。

第 3 回；子どもの成長が感じられるとうれしい。

第 4 回；特定の仲良しと遊ぶ。笑顔や家族や友達を思いやる姿を見ることがうれしい。

② 親の状況：

第 1 回；主たる育児者で納得。育児で頼りにしたのは夫。

第 2 回；主たる育児者で納得。育児の苦労感は夫・父母・ママ友に話す、寝て気分転換、先輩やママ友のアドバイスを得ることで対処。

第3回；しつけは必要。

第4回；しつけは必要。

(12) 事例 12 N：母親 39 歳、子ども 2 人（男 2 人）、対象児は第 2 子、仕事なし。

① 子どもの状況：

第 1 回；昼寝をしなくなった。思いやりができる場面がある。友達を名前で呼ぶ。

第 2 回；園生活を楽しんでいるようすが見えるとうれしい。

第 3 回；昼寝が必要なくなった。疲れからの情緒不安定が減った。自ら考えた行動が家族や友達のための行動だった時はうれしい。

第 4 回；「お母さん大好きだよ」と言ってくれてうれしい。

② 親の状況：

第 1 回；主たる育児者で納得。

第 2 回；主たる育児者で時々納得できない。社会制度の変革が必要。育児の苦労感はその場その場でしのぐ、外食利用、子どもに八つ当たりで対処。

第 3 回；しつけの必要性は時と場合によるが、周囲と関わるとき自分だけの要求を通すことはできないし、助け合って自らの希望を実現できることもあることを学んでほしい。育児に限らずクレームを大きく発言する人が増え、激烈なクレーマーに会ってショックを受けた。冷静さに欠けていて悲しい。一步引いて考える余裕が自分にも必要。少し内職を始めた。

第 4 回；しつけは、時と場合によるが思いやりのある行動がとれるようになるため必要。

(13) 事例 13 N：母親 33 歳、子ども 2 人（男 2 人）、対象児は第 2 子、仕事あり。

① 子どもの状況：

第 2 回；できなかったことができるようになるとうれしい。

第 3 回；病気が減り食欲が増した。興味対象が増えた。多少穏やかになった。

第 4 回；食欲が増し健康になった。他人に優しくできている時うれしい。

② 親の状況：

第 1 回；主たる育児者で時々納得できない。夫は休日には進んで子どもの相手をしてほしい。

第 2 回；夫と半々で担当し納得。

第 3 回；しつけの必要性は時と場合による。

第 4 回；しつけは物事の良し悪しを教えるために必要。他人に影響されることなく、このまますくすく育ててほしい。

(14) 事例 14 N：母親 36 歳、子ども 2 人（男 2 人）、対象児は第 2 子、仕事なし。

① 子どもの状況：

第 1 回；起床・就寝が早くなった。

第 2 回；食欲が出てきた。自分でできることが増えたことはうれしい。

第 3 回；平日の就寝時刻が遅くなってきた。

第4回；「ママ大好き」と甘えてくるとうれしい。

② 親の状況：

第1回；主たる育児者で時々納得できない。夫にもう少し育児に関わってもらえるとよい。

第2回；主たる育児者で納得。

第3回；たまに夫に「協力していないよ」とはっきり言うと少しはするようになる。仕事が忙しくなかなか家にいないので仕方がない面もある。

第4回；しつけはやってよいことと悪いことは親が教えなければ分からないから必要。友人関係がうまくいくことを願っている。

(15) 事例 15N：母親 33 歳、子ども 2 人（男 2 人）、対象児は第 2 子、仕事なし。

① 子どもの状況：

第1回；幼稚園・習い事で疲れて帰ってくるので夕食が早くなり就寝起床のリズムが整って、風邪をひかなくなり、食事の好き嫌いも少なくなった。友達関係も増え、物事の善悪も判断できるようになった。

第2回；起きている時間が長くなった。食事の量が増え風邪でも発熱することが減った。他人の感情を読み取りストレートにうれしくなる言葉を表現してくれる。喜怒哀楽の表現が大きく声も大きいので周りに迷惑がかかることがある。

第3回；集合住宅から一戸建てに引っ越し自宅周辺で遊ぶ。工作に夢中で部屋中に廃材で作った作品が並ぶ。集中力が高まり規則正しくなってきた。

第4回；以前は CM で流れる玩具を欲しがったが最近空き箱や牛乳パックで自ら作る。

② 親の状況：

第1回；育児は夫と半々で納得。育児で頼りにしたのは夫。お金を使わずに遊ぶ場所が不足。集合住宅に住んでいると子どもの多い家庭に苦情が多く大人が神経質になり過ぎている気がする。

第2回；育児は夫と半々で納得。納得には自分の意識が変わることが必要だった。育児の苦労感は趣味で気分転換、ネットからの知識、先輩・ママ友からのアドバイス、特に何もせず忘れるなどで対処。

第3回；しつけは社会に出てからのルール・マナー等必要最低限のことは教え身に付けさせるべきだと思うので必要。健康で笑顔でいてくれれば何でもうれしい。声が高いのが苦労の種、静かに話が聞ける時に理由を説明。言うことを聞かない時は話し合う、兄に手伝ってもらおう。子どもには自分でできることをしてもらおう。実母に食品などで助けてもらおう。機械・情報等便利なものが増え新しいことに挑戦してみるチャンスもある反面、ツールを使いこなせない親も多い。子どもに個性を求めるよりも古きを訪ね新しい物づくりを求める時代が来ている気がする。

第4回；しつけは人とコミュニケーションをとる上で、迷惑をかけない、マナーを守るなどのために必要。生活のリズムがきちんとしていると行動しやすくなる。すべてにおいて子どもがうれしければ私もうれしい。経済上の苦労感は家でできる内職

のようなことをし、節約に努め、子どもにもお金の説明をして家族みんなで貯金する。実家からの援助。

(16) 事例 16 N：母親 33 歳、子ども 2 人（男 2 人）、対象児は第 2 子。仕事は第 3 回調査時までであり。

① 子どもの状況：

第 1 回；友達と遊ぶ時間が増えた。

第 2 回；昼寝をしなくなり、体力がついて風邪をひきにくくなった。何かができるようになる成長がうれしい。

第 3 回；体力がついて昼寝をしなくなった。風邪もひきにくくなった。子どもはいてくれるだけでうれしくて幸せ。かわいくて仕方がない。

第 4 回；できることが増えていることがうれしい。

② 親の状況：

第 1 回；主たる育児者で納得。思いやりや協力者（親など）がいない人は子育てはしづら
いと思う。

第 2 回；主たる育児者で納得。

第 3 回；しつけは、人は一人で生きてゆけないので皆で生きるためのルールを知らない
と自分が困るから必要。自分の健康保持のためには、うがい・手洗い・バランス
の良い食事。今の世の中に欠けているのは常識と思いやり。子どもの能力を伸ば
すことは大事だが、自分が社会の一員として何ができるか協調性と努力し続ける
精神があればよい。

第 4 回；しつけは動物ではなく人間だから必要。

(17) 事例 17 N：母親 33 歳、子ども 2 人（男 2 人）、対象児は第 1 子、仕事なし。

① 子どもの状況：

第 1 回；友達と遊びたがる。ご飯もおやつもよく食べる。昼寝なしでも夜泣きがなくなった。

第 2 回；よく食べるようになった。笑っているとうれしい。

第 3 回；1 年前と遊び方、友達関係が変わった。

第 4 回；食欲はある。子どもの笑顔がうれしい。子どもの習い事も増え子ども自身、家で
の過ごし方が分からなくなっているように見える。

② 親の状況：

第 1 回；育児は夫と半々で納得。長男は親としても初めてのことも多く心配もある。我が
家のやり方と他家のやり方の違いを本人がどう思っているのか考える時がある。
どこまで子ども目線で過ごしたらよいのか日々考えている。

第 2 回；育児は夫と半々で納得。

第 3 回；しつけは時と場合による。育児の苦労感
は夫と話し合う、ママ友と話す、自分で
分析するなど
で対処。

第 4 回；しつけの必要性は時と場合による。育児の苦労感には無理をしないで対処。日々

あつという間に過ぎるので流されないように子どもの成長を感じたい。

(18) 事例 18 N：母親 32 歳、子ども 1 人（男 1 人）、対象児は第 1 子、仕事なし。

① 子どもの状況：

第 1 回；寝るまでの時間が早くなった。

第 2 回；寝つきが早くなった。友達と交わって遊ぶようになった。元気に通園できることはうれしい。

第 3 回；先生に挨拶ができたときはうれしい。

第 4 回；食欲が出てきた。ご飯をペロッと食べてくれるとうれしい。

② 親の状況：

第 1 回；主たる育児者で時々納得できない。子育ての悩みなど夫婦で共有したい。育児で頼りにしたのは夫。

第 2 回；主たる育児者で納得。育児の苦労感はその場その場でしのぐ。

第 3 回；しつけは小さい時に基本的なことは教えた方がよいので必要。育児の苦労感は夫に家事を手伝ってもらうことで対処。

第 4 回；しつけは人間として基本的なルールは教えないと分からないと思うので必要。

(19) 事例 19 N：母親 40 歳、子ども 1 人（女 1 人）、対象児は第 1 子、仕事あり。

① 子どもの状況：

第 1 回；幼稚園ごっこをする。親の知らないこと・友人のことを得意気に話す。

第 2 回；早バスになり起きる時間が早くなった。親の知らない幼稚園の話をしてくれるとうれしい。親の都合でイライラしている時に限って切れ目なくしゃべられ黙ってもらいたいが一生涯懸命話してくれる姿を見ると黙れとも言えず苦労している。

第 3 回；母親の仕事時間の終わる時間が遅くなったことにより就寝時刻が遅くなった。具合の悪い時に優しくしてくれ、おいしいと思うものを分けてくれる。野菜を食べてくれないのが悩みだが食卓に置いてすすめるもうまくいかない。

第 4 回；健康でいること、園のこと友達のことを話してくれるのがうれしい。

② 親の状況：

第 1 回；主たる育児者で納得。育児で頼りにしたのは夫。専業主婦が少なくなりつつあるがよいのだろうか。子どもと一緒にいる時間は大切だと思う。

第 2 回；主たる育児者で納得。働くママのためには育児休暇・保育園の増加などはよく聞くが専業主婦でもやってゆける世の中づくりが欠けてきている。働く女性が多くなって働くのが当たり前、不況も重なり働かざるを得ないという状況になっているようだが、専業主婦で子育てに専念できることも大切。子どもと関わる時間の大切さもあるし、仕事と家事育児の両立は大変だし、安心して専業主婦でいられる世の中ならば少子化問題もよい方向に向かうのではないかな。

第 3 回；しつけは、悪いことに気づかず成長するのはよくないから必要。週 3 日パートで働いているが仕事のある日は就寝時刻が遅くなってしまふ。働いている母親に聞

くと皆その傾向があるという。さらに共働きが多くなる将来の子どもは大丈夫だろうか。経済的なことは無駄遣いをしないようにする。気合で何とかする。

第4回；しつけは社会生活をしてゆくためのルールや物事の良し悪しを知らないと人間関係で困ると思うから必要。

(20) 事例 20 N：母親 35 歳、子ども 2 人（男 1 人女 1 人）、対象児第 2 子男児、仕事は第 4 回調査時よりあり。

① 子どもの状況：

第 1 回；自然（昆虫・植物）に興味を持つようになった。

第 2 回；小学生の姉と同じような過ごし方になっている。子どもらしさがうれしい。

第 3 回；仕事をするにあたり延長保育を利用することが多くなった。友達も増え関わりながらよく遊ぶ。楽しそうに遊んだり話をしている姿はうれしい。

第 4 回；以前は恥ずかしがっていたが最近よく歌う。できることが増えるとうれしい。

② 親の状況：

第 1 回；主たる育児者で時々納得できない。子どものしたこと、成長の具合などが全て母親のしつけや養育の出来不出来という見方で見られてしまう社会の風潮が変わることを望む。子どもを取り巻く環境の悪化が心配。子どもを狙った犯罪、自分の子ども以外への無関心、社会（大人）の無関心から来るのかもしれない。

第 2 回；主たる育児者で時々納得できない。

第 3 回；しつけは周囲の人に迷惑をかけない、人として当然のマナー・生活習慣を身に付けさせたいから必要。育児の苦労感は親しいママ友・夫・学生時代の友人らのおしゃべり、週 1 のジム通いで対処。以前よりは父親の育児参加を見ることが増えているが、まだまだ育児＝母親の図式が残っている。働く母親の負担は非常に重く、社会全体で子育ての支援が必要だと強く感じる。

第 4 回；しつけは、基本的な生活習慣・マナー・社会での関わり合いがうまくいくために必要。育児の苦労感は週 1 のジム通い、マッサージ、寝て休息をとることで対処。

(21) 事例 21 N：母親 43 歳、子ども 1 人（男 1 人）、対象児は第 1 子、仕事あり。

① 子どもの状況：

第 1 回；昼寝がなくなり早寝早起きになった。

第 2 回；昼寝がなくなった。いろいろなことができるようになるのがうれしい。

第 3 回；昼寝がなくなった。園から帰宅後友達と遊ぶようになった。喘息が出た。成長が感じられるとうれしい。

第 4 回；仲のよい友達ができた。子どもの成長がうれしい。

② 親の状況：

第 1 回；主たる育児者で時々納得できない。私が仕事の時はもう少し協力があればよい。生活上の自立が遅れているのが心配、子どもの性格もあると思うが自分のやり方が悪いのかと不安。内向的な性格なので将来いじめや登校拒否などが心配。もっ

と夫の協力が得られるとよいが、会社で精一杯で家のことはあまり協力を望めない。私も仕事で多少の収入はあり、彼には今より収入が下がっても自由度の高い働き方をしてほしいが選択の余地はない。

第2回；主たる養育者で納得。

第3回；しつけは社会の共存していくため必要。育児の苦労感ジムで運動、本を読んだり人に聞いたりして試してみる、自分の気持ちのあり方を変えるようにして対処。子どもが学校・社会に適応してゆけるか心配。

第4回；しつけは社会でやってゆくため家庭で生きるため必要。育児の苦労感適切な運動で対処。子どもの特性を受け入れ、穏やかな気持ちで子育てをするために自分の価値観を変えることが必要だった。

(22) 事例 22 N：母親 33 歳、子どもは 1 人から年少組 2 月より 2 人（女 2 人）、対象児は第 1 子、仕事なし。

① 子どもの状況：

第 1 回；おやつをしっかりと食べる。集団生活が初めてのせいとかよく風邪をひく。いろいろな友達と遊べるようになった。親が妊娠中であること、園でのストレスからか赤ちゃん返りのような行動がみられる。精神的に不安定かなと思うことがある。

第 2 回；女の子と遊ぶことが多くなった。

第 3 回；テレビの時間が少し増えた。「ママ大好き」と言い、笑顔を見ることはうれしい。

第 4 回；降園後、友達と遊ぶ時間が増えた。その代り夕食、風呂、就寝が遅くなることもある。「ありがとう、大好き」と言ってくれてうれしい。

② 親の状況：

第 1 回；主たる育児者で納得。育児で頼りにしたのはママ友。

第 2 回；主たる育児者で納得。

第 3 回；しつけは必要。毎日を元気で楽しく過ごすために生活リズムなど、ある程度親がコントロールしないといけない部分はまだある。社会のルール・危険などこれからも教えていかなければいけないことがたくさんある。育児の苦労感はあまりに疲れている時には子ども達と一緒に寝ることで対処。

第 4 回；しつけは必要。よいこと悪いこと、それはなぜなのかを言葉でも親の行動でも示していかなければいけない。それらが少しずつ習慣として身につけて行ってくれたらよい。子どもが怒ったりわがママを言ったりすることがひどい時には少しほっておくことがあるが、なるべく上の子のフォローをしている。下の子を短時間でも預けてリフレッシュしたいと思う。

(23) 事例 23 N：母親 38 歳、子ども 2 人（男 1 人女 1 人）、対象児は第 2 子女児、仕事なし。

① 子どもの状況：

第 1 回；上の子が小学生になり早く起きるので一緒に早起きになった。入園して 1 週間でおむつが取れた。皆と一緒にトイレに行くからではないか。それまではトイレ

に行くのを嫌がり特にウチは絶対にトイレではしなかった。

第2回；遊びについて好みがはっきりしてきた。幼稚園の話をよくしてくれる。親友ができた。食欲も出てきた。ここ1年で自分の感情や考えを言葉に出して表現できるようになったので、何を望み何が不満なのかが分かり、コミュニケーションが取れるようになった。

第3回；食欲が増え、情緒的にも安定。子どもたちには昆虫の飼育、味覚体験、家事の手伝いなどを意識的にさせている。子どもの成長を感じる時うれしい。

第4回；嫌いな食べ物でも頑張って食べる。特定の友達と手紙のやり取りをし、友達と仲良くしていてうれしい。上の子が塾通いを始めたので夜が遅くなる。

② 親の状況：

第1回；主たる養育者で時々納得できない。せめて土日くらいは夫にもう少し積極的に育児に関わってもらいたいが、現実には疲れ切って半日は寝ている。育児で頼りにしたのは夫。今はテレビやゲームなど刺激の強いもので溢れている。その一方で食育とか早寝早起きとかエコとかストイックに頑張ることを要求される。夫の助けは当てにならず、近所に同い年の子どもが少ないので、母・父・友達の3役をこなさなくてはならずともしんどい。何かを切り捨てないと情報に振り回されてしまう。世の中にはカリカリしている人が多く、子どもと外出する時はとても気を遣う。犯罪とか地球環境のこととか考えたらキリがないけど不安でいっぱい。

第2回；主たる育児者で時々納得できない。上の子が生活面、学習面で手がかかるので下の子はいつも二の次になり寂しい思いをしているのは分かっているがきちんと向き合う時間が取れない。子どもにいろいろなことをやらせているが夫が留守がちなので、やることを増やせば私の仕事が増えるので大変。夫が家にいても家事全般は私にしかできないのであまり楽にはならない。最近子ども達が大きくなったので、2～3カ月に一度は夫に預けて休日に友人と飲みに行けるようになったので随分楽になった。

第3回；しつけは社会に出た時ルールを守れる大人になってほしいから必要。育児の苦労感は子どもを寝かせてあと一人でゆっくりする時間をとることで対処。自分のこと自分の子どもの利益ばかり考えている親が多い。お互いに協力するとか思いやるとかが少ない気がする。私たちの親世代からもそう感じる。

第4回；子どもの生活リズムや食事のことは言い続けて長い目で見ると自分の自由時間が取れないのは子どもが小学生になるまでの我慢と諦めている。夫は忙しいのでできる範囲で協力をお願いしている。

2. 子どもと親自身に関する苦労感

表1-1～1-2に示したように、23名の調査対象者に苦労感を生じさせる内容は多岐にわたっている。

表1-1 3年半の間に感じた育児に関する苦労（保育園）

事例番号	子どもに関する苦労感				親自身に関する苦労感			
	第1回調査 年少組 2008年7月	第2回調査 年少組 2009年2月	第3回調査 年中組 2010年3月	第4回調査 年長組 2011年3月	第1回調査 年少組 2008年7月	第2回調査 年少組 2009年2月	第3回調査 年中組 2010年3月	第4回調査 年長組 2011年3月
第1群（子どもに関する苦労感・親自身の苦労感ともになし）								
1T	なし	なし	朝の準備に時間がかかる	なし	なし	経済事情	仕事と両立 親の口出し 経済事情 家事全般	自由な時間 仕事と両立 家事全般
2T	なし	なし	なし	感情不安定	なし	なし	なし	自由な時間 仕事と両立 経済事情
第4群（子どもに関する苦労感・親自身の苦労感ともになり）								
3T	N. A.	健康関連	健康関連 言語発達	言語発達	仕事と両立 健康保持	仕事と両立 健康保持	仕事と両立 子の病時休 めず	仕事と両立
4T	食関連 兄妹関係	食関連 マイペース 寝起きが悪い	食関連	引込思案	夫の非協力	自由な時間	時間に追われ る	時間配分が 難しい 夫婦宅時間
5T	気持分らず 世話の全て 言う事聞かず	気持分らず	気持分らず 世話の全て	気持分らず 世話の全て	自由な時間 夫の非協力 仕事と両立 健康保持 親の口出し ママ友不在	自由な時間 夫の非協力 仕事と両立 家事全般 取残される	自由な時間 健康保持 仕事と両立 経済事情 家事全般 取残される	自由な時間 仕事と両立 経済事情 家事全般 取残される
6T	言う事聞かず	感情不安定 食関連	食関連 感情不安定 気持分らず 言う事聞かず 生活リズム 病気関連	食関連 生活リズム	仕事と両立 経済事情	仕事と両立 経済事情	健康保持	親の口出し 経済事情
7T	言う事聞かず	言う事聞かず 落着きな 生活リズム	言う事聞かず	言う事聞かず 落着きな 生活リズム	仕事と両立	健康保持	経済事情	自由な時間 仕事と両立
8T	N. A.	世話全て	落着きな 病気関連 言葉関連	病気関連	自由な時間	仕事と両立	仕事と両立	健康保持 仕事と両立 経済事情
9T	言う事聞かず 泣くこと 気持分らず	言う事聞かず	言う事聞かず 生活リズム 病気関連	言う事聞かず 生活リズム 病気関連	夫の非協力 親の口出し	親の口出し	自由な時間 仕事と両立 夫の非協力 親の口出し	自由な時間 夫の非協力 親の口出し
10T	泣くこと	病気関連 新規トイレ	病気関連	言う事聞かず 生活リズム 寝つきが悪い	仕事と両立	自由な時間	自由な時間 夫の非協力	自由な時間 仕事と両立

表1-2 3年半の間に感じた育児に関する苦勞（幼稚園）

事例 番号	子どもに関する苦勞感				親自身に関する苦勞感			
	第1回調査 年少組 2008年7月	第2回調査 年少組 2009年2月	第3回調査 年中組 2010年3月	第4回調査 年長組 2011年3月	第1回調査 年少組 2008年7月	第2回調査 年少組 2009年2月	第3回調査 年中組 2010年3月	第4回調査 年長組 2011年3月
第1群（子どもに関する苦勞感・親自身の苦勞感ともになし）								
11N	言う事聞かず	言う事聞かず 兄弟同時対応	なし	感情不安定	なし	健康保持 仕事と両立	なし	仕事と両立
12N	なし	落ち着きなし 食関連	落ち着きなし 言語関連	なし	なし	家事全般	経済事情	なし
13N	がんこ	がんこ	机に向かわず	なし	なし	仕事と両立	仕事と両立	なし
14N	なし	食関連	なし	言う事聞かず	なし	なし	夫の非協力	なし
第2群（子どもに関する苦勞感なし）								
15N	言う事聞かず	言う事聞かず	言う事聞かず	なし	経済事情	夫の非協力	夫の非協力 経済事情	仕事と両立 経済事情
16N	食関連 気持分らず 世話全て	なし	なし	食関連	自由な時間 夫の非協力	自由な時間 健康保持	健康保持	夫の非協力
17N	なし	なし	気持分らず	気持分らず	自由な時間	自由な時間 家事全般	自由な時間	自由な時間 家事全般
第3群（親自身の苦勞感なし）								
18N	食関連	食関連	食関連	気持分らず 食関連 生活リズム	なし	なし	自由な時間 家事全般	自由な時間 健康保持
19N	言う事聞かず 泣くこと	感情不安定 食関連 親子のリズム の不一致	食関連	食関連	なし	経済事情	健康保持 経済事情 家事全般	仕事と両立 経済事情 家事全般
第4群（子どもに関する苦勞感・親自身の苦勞感ともになり）								
20N	言う事聞かず 世話全て 姉妹関連	言う事聞かず	気持分らず 健康関連 感情不安定	気持分らず 感情不安定	自由な時間	自由な時間 仕事と両立 家事全般	自由な時間 仕事と両立	自由な時間 仕事と両立 家事全般
21N	言う事聞かず 世話全て	世話全て 生活リズム	言う事聞かず 落ち着きなし 世話全て 生活リズム	言う事聞かず 病気関連	健康保持	自由な時間 健康保持 仕事と両立	健康保持 仕事と両立	自由な時間 健康保持 仕事と両立
22N	言う事聞かず	言う事聞かず	言う事聞かず	言う事聞かず 感情不安定	健康保持 妊娠中	健康保持	自由な時間 健康保持	自由な時間 健康保持
23N	世話全て 食関連	言う事聞かず 生活リズム 兄弟関連	言う事聞かず 食関連 生活リズム	食関連 生活リズム 兄弟関連	健康保持 幼稚園役員	自由な時間 夫の非協力 下の子に向か う時間なし	自由な時間 家事全般	自由な時間 夫の非協力

前回までの調査では、「苦勞なし群」と「苦勞あり群」に分けて、その原因を検証してきたが、4回の調査をとおして毎回「苦勞なし」という回答者は皆無であった。しかし、保育園では10名中2名、幼稚園では13名中4名が複数回「苦勞なし」と回答している。この群を第1群とした。子どもに関する「苦勞なし」が1回以上ある群を第2群、親自身に関する「苦勞なし」が1回以上ある群を第3群、両方とも「苦勞なし」が皆無な群を第4群とした。保育園は第1群と第4群があり、幼稚園は第1群から第4群まで各群に分かれた。

3. 育児で大切なこととしっかりしつけないこと

表2-1～2-2は、各群別に育児で大切なこととしっかりしつけないこととされていることをまとめたものである。

表2-1 育児上で大切なこと・しっかりしつけないこと（保育園）

事例番号	育児上で大切なこと				しっかりしつけないこと*		
	第1回	第2回	第3回	第4回	第2回	第3回	第4回
第1群（子どもに関する苦労感・親自身の苦労感ともになし）							
1T	健康であれば 親と気持疎通 自ら意思表示	健康であれば	生活リズム 親と気持疎通 友と仲良く 自ら意思表示	健康であれば 自ら意思表示	起床時間 就寝時間	起床時間 就寝時間 知人に挨拶 3食食べる 食事マナー	就寝時間
2T	健康であれば 友と仲良く 自ら意思表示	園で巧くやる	健康であれば 友と仲良く 自ら意思表示	健康であれば 友と仲良く 園で巧くやる	家族で挨拶 知人に挨拶 食事マナー	家族で挨拶 知人に挨拶 食事マナー	知人に挨拶 食事マナー 意地悪しない
第4群（子どもに関する苦労感・親自身の苦労感ともあり）							
3T	健康であれば	健康であれば	健康であれば	健康であれば 生活リズム 自ら意思表示	起床時間 就寝時間 食べる時間 TV見る時間	起床時間 就寝時間 家族で挨拶 食事時間 食事マナー 歯磨き TV見る時間	N.A.
4T	健康であれば 自ら意思表示	気持を表現	健康であれば 生活リズム	健康であれば 友と仲良く 自ら意思表示	歯磨き 人にやさしく	意地悪しない 迷惑かけない	家族で挨拶 知人に挨拶 食事マナー 意地悪しない
5T	健康であれば 親と気持疎通 友と仲良く 園で巧くやる 子の気持優先	子の気持優先 自ら意思表示	子の気持優先	子の気持優先	就寝時間 家族で挨拶 知人に挨拶 TV見る時間 食事マナー	家族で挨拶 知人に挨拶 食事残さない 食事マナー TV見る時間	家族で挨拶 知人に挨拶 一緒に食事 食事残さない 食事マナー 衣服の着脱 TV見る時間
6T	親と気持疎通 友と仲良く	親と気持疎通	生活リズム 親と気持疎通 友と仲良く 子の気持優先	健康であれば 生活リズム 親と気持疎通 友と仲良く 自ら意思表示	家族で挨拶 知人に挨拶 食事マナー 歯磨き 衣服の着脱 意地悪しない 稽古を休まず	起床時間 就寝時間 家族で挨拶 知人に挨拶 3食食べる 一緒に食事 食事時間 食事残さない 食事マナー 歯磨き 衣服の着脱 休まず登園 意地悪しない 言うこと聞く TV見る時間 勉強の習慣	起床時間 就寝時間 家族で挨拶 知人に挨拶 3食食べる 一緒に食事 食事時間 食事マナー 歯磨き 衣服の着脱 意地悪しない 言うこと聞く TV見る時間 勉強の習慣

7T	健康であれば 親と気持疎通 友と仲良く 園で巧くやる 指標に遅れず	健康であれば 友と仲良く 素直な子	健康であれば 友と仲良く 園で巧くやる 子の気持優先	健康であれば 園で巧くやる 自ら意思表示	起床時間 就寝時間 歯磨き 意地悪しない	起床時間 就寝時間 家族で挨拶 知人に挨拶 3食食べる 一緒に食事 食事残さない 食事マナー 歯磨き 衣服の着脱 意地悪しない 言うこと聞く 休まず登園 TV見る時間	起床時間 就寝時間 家族で挨拶 食事残さない 食事マナー 歯磨き 衣服の着脱 意地悪しない 言うこと聞く
8T	健康であれば 親と気持疎通 友と仲良く 園で巧くやる	友と仲良く	友と仲良く 子の気持優先	親と気持疎通 友と仲良く 自ら意思表示	意地悪しない 言うこと聞く	食事マナー 意地悪しない	知人に挨拶 食事残さない 食事マナー 歯磨き 意地悪しない 好き嫌いせず
9T	親と気持疎通 友と仲良く 園で巧くやる 自ら意思表示	健康であれば	健康であれば 生活リズム 親と気持疎通 友と仲良く 園で巧くやる 自ら意思表示	健康であれば 友と仲良く	知人に挨拶 歯磨き 食事残さない 意地悪しない	家族で挨拶 知人に挨拶 3食食べる 一緒に食事 歯磨き 衣服の着脱 休まず登園 意地悪しない	知人に挨拶 3食食べる 食事マナー 歯磨き 衣服の着脱 意地悪しない
10T	友と仲良く	健康であれば	親と気持疎通 友と仲良く 自ら意思表示	健康であれば 友と仲良く 自ら意思表示	家族で挨拶 歯磨き 休まず登園	起床時間 就寝時間 家族で挨拶 3食食べる 歯磨き 意地悪しない	家族で挨拶 知人に挨拶 意地悪しない TV見る時間

注) * : 第1回目は未調査

表 2-2 育児上で大切なこと・しっかりしつけないこと（幼稚園）

事例 番号	育児上で大切なこと				しっかりしつけないこと*		
	第1回	第2回	第3回	第4回	第2回	第3回	第4回
第1群（子どもに関する苦労感・親自身の苦労感共になし）							
11N	友と仲良く 園で巧くやる 素直な子 自ら意思表示	自ら意思表示	健康であれば 親と気持疎通 友と仲良く 園で巧くやる 自ら意思表示	健康であれば 親と気持疎通 園で巧くやる	起床時間 就寝時間 歯磨き 衣服の着脱 家族で挨拶 意地悪しない 知人に挨拶	家族で挨拶 食事マナー 歯磨き 衣服の着脱 意地悪しない	就寝時間 家族で挨拶 3食食べる 歯磨き 意地悪しない
12N	健康であれば 親と気持疎通 自ら意思表示	自ら意思表示	健康であれば 自ら意思表示	健康であれば 親と気持疎通	就寝時間 家族で挨拶 意地悪しない ぐずらない	家族で挨拶 知人に挨拶 食事マナー 意地悪しない 言うこと聞く	就寝時間 家族で挨拶 3食食べる 食事マナー 意地悪しない TV見る時間
13N	健康であれば 園で巧くやる	健康であれば 友と仲良く	生活リズム 園で巧くやる 自ら意思表示	生活リズム 親と気持疎通 友と仲良く 園で巧くやる 自ら意思表示	就寝時間 家族で挨拶 食事マナー 歯磨き 衣服の着脱 意地悪しない	起床時間 就寝時間 家族で挨拶 知人に挨拶 3食食べる 食事残さない 食事マナー 歯磨き 衣服の着脱 意地悪しない	就寝時間 家族で挨拶 知人に挨拶 3食食べる 食事マナー 歯磨き 意地悪しない 勉強の習慣
14N	親と気持疎通 友と仲良く 園で巧くやる 子の気持優先	親と気持疎通 子の気持優先 自ら意思表示	N.A.	生活リズム 親と意思疎通 友と仲良く 自ら意思表示	就寝時間 食事マナー 歯磨き 休まず登園 意地悪しない	N.A.	就寝時間 食事残さない 食事マナー 歯磨き
第2群（子どもに関する苦労感なし）							
15N	健康であれば 親と気持疎通 園で巧くやる	親と気持疎通 自ら意思表示	健康であれば 親と気持疎通 友と仲良く	生活リズム 親と気持疎通 自ら意思表示	家族で挨拶 知人に挨拶 食事時間 TV見る時間 食事残さない 食事マナー 歯磨き 衣服の着脱 休まず登園 意地悪しない 稽古を休まず 自己意見いう 自分の事は自分で	起床時間 就寝時間 家族で挨拶 知人に挨拶 3食食べる 食事マナー 歯磨き 意地悪しない 物を大切に 交通安全	家族で挨拶 知人に挨拶 3食食べる 食事マナー

16N	健康であれば 友と仲良く	園で巧くやる	健康であれば 園で巧くやる	健康であれば 生活リズム	就寝時間 家族で挨拶 知人に挨拶 TV 見る時間 食事残さない 食事マナー 歯磨き 休まず登園 意地悪しない 言うこと聞く	起床時間 就寝時間 家族で挨拶 知人に挨拶 3 食食べる 一緒に食事 食事残さない 食事マナー 歯磨き 衣服の着脱 休まず登園 意地悪しない 言うこと聞く TV 見る時間	家族で挨拶 知人に挨拶 食事マナー 意地悪しない
17N	健康であれば 子の気持優先 自ら意思表示	健康であれば	健康であれば 自ら意思表示	健康であれば 親と気持疎通 自ら意思表示	歯磨き 知人に挨拶	家族で挨拶 知人に挨拶 歯磨き	家族で挨拶 食事マナー 歯磨き TV 見る時間
第3群 (親自身の苦労感なし)							
18N	健康であれば 園で巧くやる	友と仲良く 自ら意思表示	生活リズム 親と意思疎通 友と仲良く 園で巧くやる 自ら意思表示	生活リズム 友と仲良く 自ら意思表示	就寝時間 知人に挨拶 歯磨き 意地悪しない	起床時間 就寝時間 食事マナー 歯磨き 意地悪しない	知人に挨拶 食事マナー 歯磨き TV 見る時間
19 N	親と気持疎通 友と仲良く 園で巧くやる	友と仲良く	友と仲良く	生活リズム 友と仲良く 園で巧くやる	知人に挨拶 歯磨き 意地悪しない 言うこと聞く	家族で挨拶 知人に挨拶 3 食食べる 食事マナー 歯磨き 衣服の着脱 意地悪しない 言うこと聞く	家族で挨拶 知人に挨拶 食事マナー 歯磨き 意地悪しない 言うこと聞く
第4群 (子どもに関わる苦労感・親自身の苦労感ともにあり)							
20 N	友と仲良く 園で巧くやる	親と気持疎通 自ら意思表示	生活リズム 親と気持疎通 友と仲良く 園で巧くやる 自ら意思表示	生活リズム 親と気持疎通 園で巧くやる	家族で挨拶 食事時間 食事マナー 食事残さない 歯磨き	知人に挨拶 3 食食べる 食事残さない 食事マナー 歯磨き 衣服の着脱 意地悪しない	家族で挨拶 知人に挨拶 3 食食べる 一緒に食事 食事時間 食事残さない 食事マナー 歯磨き 衣服の着脱 意地悪しない 言うこと聞く
21 N	健康であれば 親と気持疎通 園で巧くやる	健康であれば 指標に遅れず	生活リズム 園で巧くやる 子の気持優先	健康であれば 生活リズム 親と気持疎通 自ら意思表示	起床時間 就寝時間 知人に挨拶 意地悪しない	起床時間 就寝時間 家族で挨拶 3 食食べる 食事残さない 歯磨き	起床時間 就寝時間 家族で挨拶 知人に挨拶 3 食食べる 食事残さない 歯磨き

22 N	健康であれば 親と意思疎通 友と仲良く 園で巧くやる	N.A.	健康であれば 親と意思疎通 友と仲良く	親と気持疎通 友と仲良く 自ら意思表示	就寝時間 TV 見る時間 食事マナー 歯磨き	就寝時間 TV 見る時間	起床時間 知人に挨拶 食事マナー
23 N	親と気持疎通 素直な子	親と気持疎通 自ら意思表示	親と気持疎通 園で巧くやる	生活リズム 親と気持疎通 友と仲良く	家族で挨拶 知人に挨拶 食事残さない 歯磨き 意地悪しない 言うこと聞く ぐずらない	家族で挨拶 知人に挨拶 食事残さない 食事マナー 歯磨き 言うこと聞く	知人に挨拶 食事残さない 食事マナー 歯磨き 着脱 言うこと聞く

注）＊：第1回目は未調査

4. 子どもと親の睡眠リズム

表3-1～3-2、表4-1～4-2は、23組の親子を第1群から第4群に分け、それぞれの睡眠リズムを示したものである。

表3-1 子どもの睡眠リズム（保育園）

事例 番号	平日 休日	起床時刻				就寝時刻				睡眠時間				過不足感*	
		第1回	第2回	第3回	第4回	第1回	第2回	第3回	第4回	第1回	第2回	第3回	第4回	第3回	第4回
第1群（子どもに関する苦労感・親自身の苦労感ともになし）															
1T	平日	6:00	6:30	6:00	6:00	20:00	20:30	20:00	20:00	10.0	10.0	10.0	10.0	△	○
	休日	7:00	7:00	6:30	7:00	20:00	20:30	20:00	21:00	9.0	9.5	10.5	10.0	○	○
2T	平日	6:00	6:00	6:30	6:15	20:00	19:00	20:30	21:00	10.0	9.5	10.0	9.15	○	○
	休日	6:00	6:00	6:30	6:15	20:00	19:00	20:30	21:00	10.0	9.5	10.0	9.15	○	○
平均 睡眠時間		/	/	/	/	/	/	/	/	10.0 9.5	9.75 9.5	10.0 10.25	9.58 9.58	9.83 (9:50) 9.71 (9:43)	
第4群（子どもに関する苦労感・親自身の苦労感ともになり）															
3T	平日	6:30	7:00	7:00	6:40	21:30	20:45	20:00	21:00	10.0	10.25	11.0	9.5	△	△
	休日	7:00	7:30	8:00	8:00	20:30	21:15	21:30	21:00	10.0	10.25	10.5	11.0	△	○
4T	平日	7:00	7:30	6:30	7:15	21:00	21:30	21:30	22:00	9.5	10.0	9.0	9.5	○	○
	休日	7:00	8:30	7:30	7:50	21:00	21:30	21:30	22:00	10.0	11.0	10.0	10.0	○	○
5T	平日	6:30	7:00	7:00	6:30	20:30	20:30	20:30	20:30	10.0	10.5	10.0	10.0	○	○
	休日	8:00	8:00	8:00	8:00	20:30	21:00	21:00	20:30	11.0	11.0	10.5	11.5	○	○
6T	平日	6:30	7:00	7:00	7:00	21:30	22:00	21:30	22:00	9.0	9.0	10.5	9.00	○	N.A.
	休日	7:30	7:30	7:30	8:00	22:00	22:30	22:00	N.A.	9.5	9.0	11.0	N.A.	○	△
7T	平日	6:30	6:30	7:00	6:30	20:30	20:30	21:00	21:00	10.0	10.0	10.0	9.5	△	△
	休日	6:30	7:00	7:30	7:00	20:30	20:00	21:00	21:00	10.0	11.0	10.5	10.0	○	○
8T	平日	6:00	6:30	6:30	6:15	23:30	21:00	21:00	20:30	6.5	9.5	9.5	9.5	△	○
	休日	7:00	7:00	7:00	7:00	23:00	21:30	21:00	21:00	8.0	9.5	10.0	10.0	△	○
9T	平日	7:15	7:15	7:00	7:15	21:30	21:30	21:30	21:45	9.75	9.75	9.5	9.75	△	△
	休日	8:00	8:00	8:00	8:00	21:30	21:30	21:30	N.A.	10.5	10.5	10.5	N.A.	○	○
10T	平日	7:00	6:45	7:00	7:15	21:30	21:30	21:30	21:15	9.5	9.25	9.5	10.0	○	○
	休日	7:30	7:00	7:00	7:30	21:30	21:45	21:30	21:30	10.0	9.25	9.5	10.0	○	○
平均 睡眠時間		/	/	/	/	/	/	/	/	9.28 9.88	9.78 10.18	9.88 10.31	9.59 10.41	9.63 (9:38) 10.20 (10:12)	

注）＊；○＝大体足りている △＝足りている時と足りない時がある ×＝足りていないことが多い

表3-2 子どもの睡眠リズム(幼稚園)

事例 番号	平日 休日	起床時刻				就寝時刻				睡眠時間				過不足感*	
		第1回	第2回	第3回	第4回	第1回	第2回	第3回	第4回	第1回	第2回	第3回	第4回	第3回	第4回
第1群 (子どもに関する苦労感・親自身の苦労感ともになし)															
11N	平日	6:30	7:00	7:00	6:30	19:30	20:30	20:30	20:30	11.0	10.5	10.0	10.0	○	○
	休日	7:30	7:00	7:00	7:30	20:00	20:30	21:00	21:00	11.5	10.5	10.0	10.5	○	○
12N	平日	7:00	7:00	7:00	7:10	21:00	21:00	21:00	21:00	10.0	10.0	10.0	10.0	○	○
	休日	7:00	8:00	8:00	7:10	21:00	21:30	21:00	21:00	10.0	10.5	11.0	10.0	△	○
13N	平日	6:30	6:30	7:00	7:00	21:00	20:00	20:00	20:00	10.0	10.5	11.0	11.0	○	○
	休日	7:00	7:00	7:00	7:00	N.A.	20:00	20:00	20:00	N.A.	10.0	11.0	11.0	○	○
14N	平日	7:40	8:00	7:30	7:30	20:50	21:00	21:30	21:00	10.8	11.0	10.0	10.5	△	△
	休日	8:00	8:00	9:00	9:00	21:00	21:30	22:00	22:00	11.0	10.5	11.0	11.0	○	○
平均 睡眠時間		/	/	/	/	/	/	/	/	10.45	10.5	10.25	10.38	10.40 (10:24)	
第2群 (子どもに関する苦労感なし)															
15N	平日	6:30	7:30	8:00	7:30	19:30	22:00	21:30	21:30	11.0	9.5	10.5	10.0	○	△
	休日	7:00	7:30	7:30	7:00	20:00	21:30	21:30	22:00	11.0	10.0	10.0	10.0	○	○
16N	平日	6:30	7:00	7:00	7:00	21:00	21:00	21:00	21:30	10.0	10.0	10.0	9.5	○	○
	休日	6:30	7:00	7:00	7:00	20:30	20:00	21:00	21:00	9.5	11.0	10.0	10.0	○	○
17N	平日	6:20	7:00	7:30	8:00	22:00	20:30	21:00	21:00	10.3	10.5	10.5	11.0	△	△
	休日	6:30	8:00	8:00	8:00	21:00	21:00	21:00	21:00	9.5	11.0	11.0	11.0	△	△
平均 睡眠時間		/	/	/	/	/	/	/	/	10.43	10.0	10.33	10.17	10.23 (10:14)	
第3群 (親自身の苦労感なし)															
18N	平日	6:30	6:30	7:00	8:00	22:30	20:30	21:00	20:30	8.0	10.0	10.0	11.5	○	○
	休日	7:00	7:00	8:30	8:00	22:30	21:00	21:00	21:00	9.5	10.0	11.5	11.0	○	○
19N	平日	7:00	6:50	7:30	7:00	21:30	21:00	22:00	22:00	10.0	9.8	9.5	9.0	○	○
	休日	7:30	6:30	7:30	8:00	21:00	21:00	21:00	22:00	10.5	9.5	10.5	10.0	○	○
平均 睡眠時間		/	/	/	/	/	/	/	/	9.0	9.9	9.75	10.25	9.73 (9:44)	
第4群 (子どもに関する苦労感・親自身の苦労感ともになり)															
20N	平日	7:00	7:00	7:00	6:30	20:30	21:00	21:00	21:30	10.5	10.0	10.0	9.0	△	△
	休日	7:00	7:00	8:00	7:30	20:30	21:00	21:00	21:30	10.5	10.0	11.0	10.0	○	○
21N	平日	6:30	6:30	6:30	6:30	18:00	19:30	20:30	20:00	12.0	11.0	10.0	10.5	○	○
	休日	6:30	6:30	7:00	7:30	19:00	20:30	20:30	20:00	11.5	10.0	10.5	11.5	○	○
22N	平日	6:00	6:00	6:00	6:00	19:00	19:00	19:00	19:30	11.0	11.0	11.0	10.5	○	○
	休日	7:00	7:00	7:00	7:00	20:00	20:00	20:00	20:00	11.0	11.0	11.0	11.0	△	△
23N	平日	7:00	7:00	7:00	6:45	21:00	21:00	21:00	21:30	10.0	10.0	10.0	9.0	△	△
	休日	7:00	8:00	8:00	8:00	21:00	21:30	21:00	21:30	10.0	10.0	11.0	10.5	△	○
平均 睡眠時間		/	/	/	/	/	/	/	/	10.88	10.5	10.25	9.75	10.35 (10:21)	
										10.75	10.25	10.88	10.75	10.66 (10:40)	

注) * ; ○=大体足りている △=足りている時と足りない時がある ×=足りていないことが多い

表4-1 母親の睡眠リズム（保育園）

事例 番号	平日 休日	起床時刻*1			就寝時刻*1			睡眠時間*1			過不足感*2	
		第2回	第3回	第4回	第2回	第3回	第4回	第2回	第3回	第4回	第3回	第4回
第1群（子どもに関する苦労感・親自身の苦労感ともになし）												
1T	平日	5:00	5:00	5:00	21:00	21:00	21:00	9.0	8.0	8.0	×	×
	休日	7:30	8:00	8:00	21:30	21:00	22:00	10.0	11.0	10.0	△	N.A.
2T	平日	5:00	5:30	5:00	23:00	23:30	23:00	5.5	6.0	6.0	△	△
	休日	5:00	6:00	5:00	23:00	23:30	23:00	6.0	5.5	6.0	△	△
平均 睡眠時間		/	/	/	/	/	/	7.25 8.0	7.0 8.25	7.0 8.0	7.08 (7:05) 8.08 (8:05)	
第4群（子どもに関する苦労感・親自身の苦労感ともになり）												
3T	平日	6:00	6:00	5:30	22:00	23:00	22:00	8.0	7.0	5.5	△	○
	休日	7:00	8:00	7:30	22:00	24:00	23:00	9.0	8.0	8.5	○	△
4T	平日	5:00	5:30	5:20	22:00	23:30	22:30	7.0	6.0	7.0	△	△
	休日	6:00	6:00	5:40	22:00	23:30	22:30	8.0	5.5	7.0	△	△
5T	平日	6:00	6:00	6:00	21:00	22:00	22:00	9.0	8.0	8.0	×	○
	休日	6:00	7:30	7:00	21:00	22:00	22:00	9.0	9.5	9.0	△	○
6T	平日	6:00	6:00	6:00	23:30	23:30	23:00	6.5	6.5	7.0	△	△
	休日	7:30	8:00	8:00	22:00	23:00	23:00	9.5	9.0	9.0	○	△
7T	平日	6:00	6:00	6:00	22:00	22:00	22:00	8.0	8.0	8.0	△	△
	休日	7:00	7:00	7:30	22:00	22:00	22:30	9.0	9.0	9.0	○	△
8T	平日	6:00	5:30	6:00	22:30	22:30	22:30	7.5	7.0	7.5	×	×
	休日	7:30	7:30	7:30	22:30	22:30	23:00	9.0	9.0	7.5	△	△
9T	平日	6:00	6:00	5:45	23:00	23:30	23:30	7.0	5.5	6.0	×	×
	休日	7:00	6:30	6:30	23:00	23:30	23:00	8.0	7.0	7.5	△	△
10T	平日	6:00	6:00	6:00	22:00	22:30	22:30	8.0	7.5	7.5	△	○
	休日	6:30	6:00	7:00	22:30	22:30	22:30	8.0	7.5	8.5	△	○
平均 睡眠時間		/	/	/	/	/	/	7.63 8.69	6.94 8.06	7.06 8.25	7.21 (7:13) 8.33 (8:20)	

注）*1：年少組7月は未調査

*2：○=大体足りている △=足りている時と足りない時がある ×=足りていないことが多い

(1) 保育園児の睡眠時間

表3-1に示したように、保育園児の睡眠時間は、第1群の平日が9時間50分、休日9時間43分と両者間に差はない。第4群は平日9時間38分、休日10時間12分と休日の方が34分ほど長い。

(2) 幼稚園児の睡眠時間

表3-2に示したように、幼稚園児の睡眠時間は、第1群の平日が10時間24分、休日10時間39分、第2群は平日10時間14分、休日10時間20分、第4群が平日10時間21分、休日10時間40分と平日休日に差はなく、第3群のみ平日9時間44分、休日10時間19分と平日が短時間である分だけ休日は35分ほど長くなっている。

(3) 保育園児の母親の睡眠時間

表4-1に示したように、保育園児の母親の睡眠時間は、第1群と第4群とも平日7時間以上、休日8時間以上であり、平日休日に1時間から1時間7分の差が見られた。

(4) 幼稚園児の母親の睡眠時間

表4-2に示したように、幼稚園児の母親の睡眠時間は、第3群は平日6時間未満、その他の群は6時間台であり、休日は第1群と第2群が7時間台、第3群と第4群が8時間台であった。第3群は平日と休日間に1時間55分の差があり、他の群は1時間9分から1時間21分の差がみられた。

全般的には、保育園児の母親よりも幼稚園児の母親の方が睡眠時間は短い傾向にある。

表4-2 母親の睡眠リズム(幼稚園)

事例番号	平日 休日	起床時刻*1			就寝時刻*1			睡眠時間*1			過不足感*2	
		第2回	第3回	第4回	第2回	第3回	第4回	第2回	第3回	第4回	第3回	第4回
第1群(子どもに関する苦労感・親自身の苦労感ともになし)												
11N	平日	7:00	6:30	6:20	24:00	24:00	24:00	7.0	6.5	6.5	△	△
	休日	8:00	8:00	8:00	24:00	24:00	24:00	8.0	8.0	8.0	△	○
12N	平日	6:40	6:00	6:30	24:30	24:00	0:30	6.17	5.5	6.0	×	△
	休日	8:00	9:00	8:30	24:30	2:00	1:40	7.5	7.0	7.0	×	×
13N	平日	5:30	5:30	5:30	22:00	22:00	23:00	7.5	7.5	5.5	○	△
	休日	6:00	6:00	6:00	22:00	22:00	22:00	8.0	8.0	8.0	○	△
14N	平日	6:30	6:00	6:20	23:30	23:30	24:00	7.0	5.5	6.5	×	△
	休日	6:30	7:00	8:00	24:00	24:00	24:00	6.5	7.0	8.0	△	○
平均睡眠時間		/	/	/	/	/	/	6.92	6.25	6.13	6.43(6:26)	
								7.5	7.5	7.75	7.58(7:35)	
第2群(子どもに関する苦労感なし)												
15N	平日	6:30	6:30	6:00	1:30	1:00	2:00	5.0	5.0	4.0	△	△
	休日	7:30	6:30	7:00	1:30	1:30	2:00	6.0	5.0	5.0	△	△
16N	平日	7:00	6:00	6:30	20:30	24:00	24:00	N.A.	6.0	6.5	×	×
	休日	7:00	9:00	7:00	20:00	24:00	24:00	N.A.	9.0	7.0	△	×
17N	平日	7:00	7:00	8:00	24:00	24:00	1:00	7.0	7.0	7.0	△	×
	休日	8:00	9:00	9:00	23:00	24:00	1:00	9.0	9.0	8.0	△	△
平均睡眠時間		/	/	/	/	/	/	6.0	6.0	5.83	5.94(5:56)	
								7.5	7.67	6.67	7.28(7:17)	
第3群(親自身の苦労感なし)												
18N	平日	6:30	7:00	N.A.	23:00	22:30	N.A.	7.5	6.5	N.A.	△	○
	休日	7:00	8:30	N.A.	22:30	22:30	N.A.	8.5	10.0	N.A.	○	○
19N	平日	6:00	6:30	6:10	24:00	24:00	24:00	6.0	6.5	6.0	△	△
	休日	6:30	8:00	8:30	24:00	24:00	24:00	6.5	8.0	8.5	△	N.A.
平均睡眠時間		/	/	/	/	/	/	6.75	6.5	6.0	6.42(6:25)	
								7.5	9.0	8.5	8.33(8:20)	
第4群(子どもに関する苦労感・親自身の苦労感ともになり)												
20N	平日	6:30	6:30	6:30	24:00	24:00	24:00	6.5	6.5	6.5	△	△
	休日	8:00	8:00	7:30	24:00	24:00	24:00	8.0	8.0	7.5	△	△
21N	平日	5:00	5:00	5:30	21:00	22:30	22:00	8.0	6.5	5.5	△	○
	休日	6:30	7:00	7:30	22:00	22:30	22:00	8.5	8.5	9.5	○	○
22N	平日	5:30	5:30	5:30	22:00	23:00	22:00	7.5	6.5	7.5	×	○
	休日	7:00	7:00	7:00	23:00	24:00	22:00	8.0	7.0	9.0	×	○
23N	平日	6:30	6:30	6:30	24:30	24:00	24:00	6.0	6.5	6.5	×	×
	休日	8:00	8:00	8:00	24:30	24:00	1:00	8.0	7.0	7.0	○	○
平均睡眠時間		/	/	/	/	/	/	7.0	6.5	6.5	6.67(6:40)	
								8.13	7.63	8.25	8.00(8:00)	

注) *1: 第1回は未調査 *2: ○=大体足りている △=足りている時と足りない時がある ×=足りていないことが多い

IV. 考察

結果の項で示した 23 名の事例を読めば分かるように、どの母親も子どもの成長を喜び、愛情をもって子どもに接している。さらに生活のリズムを身に付けさせることが必要なことも認識されている。しかし、日々の生活では、思うように事は運ばず、育児に関するさまざまな苦勞を感じているのも事実である。その主な要因はどこにあるのか、研究目的の項で記した事項を明らかにするために、その判断材料を事例と表 1-1 と 1-2、表 4-1 と 4-2 からまとめたのが表 5-1～5-2 である。

1. 育児における苦勞感とその対応

(1) 保育園の場合

表 5-1 育児上の苦勞感・大切なこと・しつけないこと・納得度・育児観（保育園）

事例番号	育児上の苦勞感・大切なこと・しつけないこと・納得度・育児観
第 1 群	1 T ①苦勞感は特になし。大切なのは、健康、自主的な意思表示。しつけないのは就寝時間を中心とした生活習慣。しつけ項目は 1～5 項目。 ②育児は夫と半々で担当し納得。年長時に母親の自由な時間なし。
	2 T ①苦勞感は特になし。大切なのは、健康、友達と仲良くすること。しつけないのは家族や知人への挨拶、食事のマナーなど社会性。しつけ項目は 3 項目。 ②育児の主たる担い手で納得。
第 4 群	3 T ①苦勞感があるのは子どもの健康、言語発達。大切なのは健康、自主的な意思表示。しつけないのは就寝時間、食関連、TV を見る時間など生活習慣。しつけ項目は 4～7 項目。 ②第 1 回目の育児は夫と半々で担当し納得。第 2 回目は主たる担い手で納得。しかし夫の休日出勤など忙しくて当てにできない。子どもが病気で休めない。年長時に自由な時間なし。
	4 T ①苦勞感があるのは食関連。大切なのは、健康。しつけないのは、人にやさしく、意地悪をしない、挨拶など社会性。しつけ項目は 2～4 項目。 ②育児の主たる担い手で時々納得できない。夫の帰宅時間が早くなり、土日も休んでほしい。時間に追われせかせかしている。年少時に自由な時間なし、夫は非協力的。
	5 T ①苦勞感があるのは、子どもの気持ちが分からない、日常の世話全て、言うことを聞かない。大切なのは、子どもの気持ちを優先すること。しつけないのは、就寝時間、食事マナー、TV を見る時間の生活習慣、挨拶の社会性。しつけ項目は 5～7 項目。 ②育児の主たる担い手で納得。自由な時間がない、夫は非協力的。 ③世間は他人の子どもに冷たい、女性が育児に喜びを感じられる世の中になってほしい。社会からの取り残されることに焦り感あり。
	6 T ①苦勞感があるのは、食関連、感情不安定、言うことを聞かない、自己主張が強い、生活リズム。大切なのは、親子の気持ちが通じ合う、友達と仲良く、自主的な意思表示、生活リズム。しつけないのは、食事関連、歯みがき、就寝時間、衣服の着脱ほかの生活習慣。意地悪をしない、挨拶などの社会性。稽古事を休まない、勉強の習慣など学びの習慣。言うことを聞く従順性。しつけ項目は、7→16→14 項目と増加傾向にある。 ②育児は夫と半々で担当し納得。年長時に自由な時間なし。 ③小学校は 1 クラスで 6 年間同じクラスで大丈夫か不安。叱らない親が多い。

第 4 群	7 T	<p>①苦労感があるのは、言うことを聞かない、落ち着きがない、生活リズム。大切なのは、健康、友達と仲よく、園でうまくやってゆく、素直さ。しつけないのは、就寝時間、食関連、歯みがき、衣服の着脱など生活習慣。意地悪をしない、挨拶など社会性。言うことを聞く従順性。しつけ項目は4～14項目。</p> <p>②育児は夫と半々で担当し納得。年長時に自由な時間なし。</p> <p>③育児はあわてず気長にやってゆけばよい。仕事との両立も頑張り過ぎない。</p>
	8 T	<p>①苦労感があるのは、病気関連、世話全て。大切なのは、友達と仲良く、親子の気持ちを通じ合う。しつけないのは、意地悪をしないなど社会性。言うことを聞く従順性。しつけ項目は4～8項目。</p> <p>②第1回目は育児を夫と半々で担当し納得。第2回目は主たる担い手で納得。</p> <p>③女兒なのに男児とばかり遊ぶが小学校に入って大丈夫か心配。女子の団体は怖い。</p>
	9 T	<p>①苦労感があるのは、言うことを聞かない、嫌なことがあるとわがままを言って当り散らす、生活リズム、病気関連。大切なのは健康、親子の気持ちを通じ合う、友達と仲良く、園でうまくやってゆく、自主的な意思表示。しつけないのは、食事関連、歯みがき、衣服の着脱など生活習慣。意地悪をしない、挨拶など社会性。しつけ項目は、4～8項目。</p> <p>②第1回目では育児の主たる担い手で納得。第2回目は主たる担い手で時々納得できない。夫は非協力的。自由な時間なし。</p>
	10 T	<p>①苦労感があるのは、病気関連、言うことを聞かない、生活リズム。大切なのは、友達と仲良く、健康、自主的な意思表示。しつけないのは、歯みがき、就寝時間など生活習慣。意地悪をしない、挨拶の社会性。しつけ項目は、3～6項目。</p> <p>②第1回目は育児を夫と半々で担当し納得。第2回目は主たる担い手で時々納得できない。年中時夫は非協力的。自由な時間なし。</p>

表5-1には、保育園児の母親の事例をまとめた。第1群の2例は、子どもに望むことやしつけの内容がシンプルであり、育児担当についても納得していることなどから、苦労感が少ないことが推測される。

それに対して、第4群の事例は複雑である。子どもに関する苦労感のうち、「言うことを聞かない」とする項目は8例中6例あり、同時に育児上で大切なことは、子ども自身の「自主的な意思表示」が8例中8例であった。すなわち、子どもの自主的な意思表示を尊重したいという回答が多いと同時に、親の言うことも聞いてほしいということであり、両義性の板挟みになっているようすが伺える。その事例は、第4群における6 T、9 T、10 Tである。さらに事例5 Tは、子どもの気持ちを優先して主体性を大切にしようとしているが、肝心の子どもの気持ちが分からずにいる一方で、社会性を育てようとしており、両義性に一層の困難を感じていると推察される。その上、自由な時間もなく社会から取り残されているような焦燥感も表現している。

子どもの社会性を育てようとするのと、子どもの自主的な意思表示との間にも葛藤が生じることが予想される。その事例は、6 T、9 T、10 Tである。しつけない項目のうち生活習慣と社会性は相反するものではないが、多くの項目をしつけようとするときに苦労感が増すと考えられる。第4群において、しつけ項目が第1群の最多である5項目の2倍となる10項目以上の事例は、6 T、7 Tであった。

育児を誰が中心になって担うのかについては、母親が主たる担い手である場合と、夫と半々で担当する場合の二通りの回答があった。母親が主たる担い手であっても、本人がそれを納得していれば苦労感が生じないはずである。しかし「納得している」と回答していても、夫が育児に非

協力的であることに苦労感を表明している事例（4 T、5 T、9 T、10 T）があった。一方、「時々納得できないことがある」という回答は、母親が主たる担い手の場合のみである。さらに母親が自由な時間が持てないことも苦労感の一つである。その事例は、第1群も含まれ、1 T、2 T、4 T、5 T、7 T、8 T、9 Tであった。

育児上の苦労感は、社会制度の不備、世間の人々の理解の少なさなどを嘆く言葉として、5 T、6 T、7 Tの事例において表明されている。

しつけは、子ども自身にある程度の自己規制を課すことになり、そこに両義性の困難さが生じるが、事例6 T、7 T、8 Tは、子どもに言うことをきかせるという従順性を求めることによって困難さを克服しようとしている。同時に、事例7 Tは、従順性を求めているが、年中時に「育児はあわてず気長にやってよいと思うようにしている」、年長時に「仕事と育児の両立を頑張り過ぎないように程々にしている」とも述べている。これは、鯨岡のいう「育児に完璧を求めない」「程よいところで充分と知ることが親としての成熟」という解決法に相当するものであろう。

(2) 幼稚園の場合

表5-2 育児上の苦労感・大切なこと・しつけたいこと・納得度・育児観（幼稚園）

事例番号	育児上の苦労感・大切なこと・しつけたいこと・納得度・育児観
第1群	11N ①苦労感があるのは、言うことを聞かない、感情不安定。大切なのは、園でうまくやってゆく、自主的な意思表示、親子の気持ちが通じ合うこと、親の言うことを聞く、素直。しつけたいのは就寝時間、歯みがきなどの生活習慣、挨拶、意地悪をしないなど社会性。しつけ項目は5～7項目。 ②育児の主たる担い手で納得。夫を頼りにしている。
	12N ①苦労感があるのは、子どもに落ち着きがない。大切なのは、健康、自主的な意思表示、親子の気持ちが通じ合う。しつけたいのは就寝時刻、食事のマナーなど生活習慣。家族への挨拶、意地悪をしないなど社会性。言うことを聞く従順性。しつけ項目は4～6項目。 ②第1回目では育児の主たる担い手で納得。第2回目は主たる担い手で時々納得できない。 ③社会制度の変革を望んでいる。
	13N ①苦労感があるのは、子どもが頑固。大切なのは、年少時に健康、年中・年長時に生活リズム、友達と仲良く、園でうまくやってゆく、自主的な意思表示。しつけたいのは就寝時間、歯みがきなど生活習慣。意地悪をしない、挨拶など社会性。勉強の時間。しつけ項目は6～10項目。 ②第1回目は育児の主たる担い手で時々納得できない。第2回目は夫と半々に担当し納得。
	14N ①苦労感があるのは、言うことを聞かない。大切なのは、親子の気持ちが通じ合う、子どもの気持ちを優先させる、自主的な意思表示、友達と仲良く。しつけたいのは就寝時間、食関連など生活習慣。しつけ項目は5～4項目。 ②第1回目は育児の主たる担い手で時々納得できない。第2回目は主たる担い手で納得。年中時に夫の非協力。夫に言えば手伝うが多忙で仕方ない面もある。
第2群	15N ①苦労感があるのは、親の言うことを聞かない。大切なのは、親子の気持ちの通じ合い、健康、自主的な意思表示。しつけたいのは、食事関連、歯みがき、就寝時間など生活習慣。挨拶、意地悪をしないなど社会性。自分の意見をいう、自分のことは自分でするという自主性。交通安全。しつけ項目は13→10→4項目と年ごとに減少。 ②育児は夫と半々に担当し納得。夫を頼りにしているが、夫は非協力的。 ③納得には自分の意識改革が必要だった。生活リズムが確立していると行動しやすい。

第2群	16N	<p>①苦労感があるのは、食関連。年少時に気持分らず、世話全て。大切なことは、健康、園でうまくやってゆく、生活リズム。しつけないのは就寝時間、歯みがき、食事関連など生活習慣。挨拶、意地悪をしないなど社会性。親の言うことを聞く従順性。社会の一員としての協調性と努力し続ける精神。しつけ項目は10→14→4項目と減少。</p> <p>②育児の主たる担い手で納得しているが、夫は非協力的。</p> <p>③世の中は常識と思いやりに欠けている。</p>
	17N	<p>①苦労感があるのは、子どもの気持ち分からない。どこまで子ども目線で過ごすべきか。大切なことは、健康、自主的な意思表示、子どもの気持ち優先。しつけないのは、歯みがき食事マナーなど生活習慣。挨拶の社会性。しつけ項目は2～4項目と少ない。</p> <p>②育児は夫と半々で担当し納得。</p> <p>③育児は無理をしない。</p>
第3群	18N	<p>①苦労感があるのは、食関連。大切なのは、友と仲良く、自主的な意思表示。しつけないのは、歯みがき、就寝時間、食事マナーなど生活習慣。意地悪をしない、知人に挨拶など社会性。しつけ項目は、4～5項目と多くない。</p> <p>②第1回目は育児の主たる担い手で時々納得できない。夫と子育ての悩みを共有したいと思いい頼りにしている。第2回目は主たる担い手で納得。夫に家事などを手伝ってもらおう。</p>
	19N	<p>①苦労感があるのは、食関連、年少時の言うことを聞かない。大切なのは、友と仲良く、園でうまくやってゆく。しつけないのは、歯みがき、食事のマナーなど生活習慣。意地悪をしない、挨拶など社会性。親の言うことを聞く従順性。しつけ項目は4～8項目。</p> <p>②育児の主たる担い手で納得。夫を頼りにしている。</p> <p>③専業主婦が成立しにくい世の中でよいのか。</p>
第4群	20N	<p>①苦労感があるのは、言うことを聞かない、気持ち分からない、感情不安定。大切なのは、親子の気持ちが通じ合う、園でうまくやってゆく、友達と仲良く、自主的な意思表示。しつけないのは、歯みがき、食事関連、衣服の着脱など生活習慣。言うことをきく従順性。しつけ項目は5→7→11項目と年ごとに増加。</p> <p>②育児の主たる担い手で時々納得できない。</p> <p>③子どもの行状すべてが母親の出来不出来で見られてしまう。社会的環境の悪化が心配。自分の子ども以外には無関心。まだまだ育児＝母親という図式が残っている。</p>
	21N	<p>①苦労感があるのは、日常の世話すべて、生活リズム、言うことを聞かない。年少時、育児全般や将来のことも不安。大切なのは、健康、生活リズム、親子の気持ちが通じ合う、成長の指標に遅れない、子どもの気持ち優先。自主的な意思表示。しつけないのは、就寝時間、食事関連、歯みがきなど生活習慣。挨拶の社会性。しつけ項目は、4～7項目。</p> <p>②第1回目は育児の主たる担い手で時々納得できない。母親が仕事の時にはもう少し協力があればよい。第2回目は主たる担い手で納得。</p> <p>③年中時「自分の気持ちのあり方を変える」ようにして対処。年長時「穏やかな気持ちで子育てをするには自分の価値観を変える」ことが必要だった。</p>
	22N	<p>①苦労感があるのは、言うことを聞かない。大切なのは、親子の気持ちが通じ合う、友達と仲良く、健康。しつけないのは、就寝時間、TVを見る時間、食事マナーなど生活習慣。年長時に知人に挨拶の社会性。しつけ項目は2～4項目と少ない。</p> <p>②育児の主たる担い手で納得。</p>
	23N	<p>①育児苦労感があるのは、言うことを聞かない、食関連、生活リズム。母・父・友達3役をこなすのはしんどい。犯罪や環境問題など不安が一杯。大切なのは、親子の気持ちの通じ合い、年少時には素直な子、自主的な意思表示、年中時から園でうまくやってゆく、友達と仲良く。しつけないのは、食事関連、歯みがきなど生活習慣。挨拶など社会性。親の言うことを聞く従順性。しつけ項目は7～6項目。</p> <p>②育児の主たる担い手で時々納得できない。夫を頼りにしたが、夫は非協力的。土日は疲れ切って半日は寝ている。2～3か月に一度は子どもを夫に預けて飲みに行けるようになって楽になった。</p>

		③世の中にはカリカリしている人が多く、子連れで外出するときは気を遣う。自分と自分の子どもの利益ばかり考えている人が多すぎる。子どもの生活リズムや食事のことは、長い目で見ると。自由時間は子どもが小学生になるまでと諦めている。
--	--	---

表5-1には、幼稚園児の母親の事例をまとめた。子どもに関する苦労感では、「言うことを聞かない」とする回答は、第1群で4例中2例、第2群で3例中1例、第3群で2例中1例、第4群で4例と少なくなかった。その一方で、育児上で大切なこととして、子ども自身の「自主的な意思表示」をあげているのは、第1群で4例中4例、第2群で2例中2例、第3群で2例中1例、第4群で4例中4例であった。つまり、親の言うことを聞いてほしいが、子どもは自主的な意思表示をしてほしいと、保育園の場合と同様、両義性のジレンマに陥っていることが分かる。その事例は、第1群の11N、14N、第2群の15N、第4群の20N、21N、23Nと、第4群において多い傾向がみられた。さらに、事例17Nはどこまで子ども目線で過ごしたらよいのか日々考えているというが子どもの気持ちが分からないともいう。ただし育児は夫と半々で担当し納得し、無理をしないとやっているの、苦労感は軽減していると思われる。

幼稚園の第1群は、保育園の事例ほどシンプルではない。事例11N、13Nは、育児上の両義性を抱えつつも、夫を頼りにすることで、育児の主たる担い手であることを納得している。12Nは、子どもに従順性を求めることで解決を図ろうとしている。14Nは、両義性を抱えつつ、しつけ項目は少なく特に社会性を求めないことで苦労感を軽減させている。

第2群と第3群において、事例16Nと19Nは子どもに従順性、事例18Nは育児を夫と半々担当することで苦労感の軽減を図っている。15Nは、子どもに自主性を求め、夫は非協力的だが、しつけ項目を年少時の13項目から年長時の4項目へと激減させるという自分自身の意識改革によって苦労感を減少させている。また16Nもしつけ項目を年中時の14項目から年長時の4項目へ激減させている。

第4群は、事例20N、23Nは子どもに従順性を求めている。特に20Nはしつけ項目が年少時の5項目から年長時の11項目へと増えているため、しつけが強化されていると思われる。22Nはしつけ項目が少ないことで対処。事例21Nは、夫は非協力的だが夫に求めるばかりでなく、穏やかな気持ちで子育てをするには自分の気持ちのありようを変え、価値観を変える必要があったと悟っている。

世間に対して、最近はクレマーが多くなった、社会制度の改革が必要、今の世の中は常識と思いやりに欠ける、専業主婦でもやってゆける世の中であってほしい、共働きが増えて子どもは大丈夫か、子どもの行状の是非はすべて母親の評価につながる、育児＝母親の図式が残っている、環境の悪化が心配、子連れで外出するととても気を遣うなどの意見が出され、それらは育児の苦労感を増幅させていると推測される（事例12N、16N、19N、20N、23N）。

保育園の事例と幼稚園の事例を比較すると、育児の主たる担い手であることに納得できないという回答は、保育園が10例中2例であるのに対し、幼稚園は13例中6例と多い。本研究の第5報までにおいて示したように、幼稚園児の母親の就業率は低いいため、育児を一人で任されることが多い結果であろうと推測される。夫が育児に非協力的であるという回答は保育園が10例中

4例であるのに対し、幼稚園は13例中4例とやや少ない。保育園児の母親の方が夫に協力を求めていることが分かる。自由な時間がないという回答も、保育園の10例中8例より、幼稚園の13例中7例の方がやや少ない。仕事で縛られる割合が少ないため、自由時間では幼稚園児の母親の方が恵まれているといえよう。

2. 睡眠のリズム

子どもの睡眠リズムをみると、極端に遅い時間の就寝や起床は見られず、大まかには子どもの睡眠リズムは確立し、睡眠時間は足りているようである。しかし細かく見れば、第1群では、保育園・幼稚園とも平日と休日の変動が少ない。その他の群では変動が少ない事例もあるが、休日には睡眠時間が長くなる事例、21時過ぎに就寝する事例も見られた。前回までの報告で検証してきたように、苦労感が少ない第1群の方が他の群よりも睡眠リズムを確立させているといえよう。

保育園児の親は仕事をしている場合がほとんどであり、自由時間がない、仕事と育児の両立は難しいと、困難を感じているのは、保育園児の親に共通したことだが、平均の睡眠時間を比べてみると、幼稚園児の親よりも保育園児の親の方が長かったのである。健康保持のためにも睡眠時間は欠かせないものであり、保育園児の親はそれを確保しているが、比較的自由裁量の時間があると思える幼稚園児の親の方が、睡眠時間は削られていたのである。家事育児を何もかも一人で担って頑張っているからかもしれない。

以上、見てきたように保育園の場合でも幼稚園の場合でも、母親の育児上の苦労感を生じさせている要因は、両義性の板挟み、理想を求めて多くのしつけをしようと熱心になり過ぎること、夫の協力が得られないこと、母親自身の自由時間への欲求、また世間の理解が得られないことなどさまざまであった。各事例は、これらの一つまたは複数の要因によって苦労感を生じさせている。解決方法として、子どもに従順性を求めること、育児に完璧を求めないで気長に取り組むこと、夫の協力を得ることなどが示された。

本研究の目的事項を順番に検証してゆくと、①育児の両義性の板挟みになっている事例は多い。②育児が母親の思い通りにならないという焦燥感は、23例中12例の「子どもが言うことを聞かないという」苦労感に表わされている。③母親の欲求は子どものそれよりも後回しになっているかどうかについて、直接的には質問をしていないが現実にはそうせざるを得ないであろうことが推測される。その結果は23例中15例に「自由な時間がない」という回答に示されている。④夫の協力を得られている事例は少ない。夫の仕事が忙しくやむを得ないと半ば諦めているが、本心では協力を求めている。⑤睡眠時間は、幼稚園時の母親の方が保育園児の母親よりも少ないという結果であった。

もともと、子どもが育つということには、鯨岡が言うように、主体性と社会性のせめぎ合いという両義性の困難があり、子ども優先にすることや子どもが負の状態から立ち直るのを待ち続けることで、逆説的に親としての幸福感やゆとり感が得られること、育児には完璧はあり得ないことなどを知ることによって、現状の苦労感から抜け出せる道が見つけられるであろう。現に、一

生懸命に育児と格闘していたが、事例1 T、事例1 T、事例15 N、事例17 N、事例21 Nのように、少々の手抜きをしたり、発想の転換をすること、自分が変わることなどで、穏やかな気持ちで楽しく育児に取り組めるようになったという報告もある。鯨岡が提言するように、育児には肩の力を抜いて、完璧を求めないことが必要であろう。

なお、事例6 T、13 Nには、稽古事や学習習慣がしつけの一環として取り上げられていたが、この学びの習慣については別の観点からの検証が必要となる。

引用・参考文献

-
- 窪龍子・井狩芳子・野田耕、2005「幼児の心身の健康に関する研究—幼稚園児と保育園児の遊びの調査（1）」『実践女子大学人間社会学部紀要第一集』
- 窪龍子・井狩芳子・野田耕、2006「幼児の心身の健康に関する研究—幼稚園児と保育園児の遊びの調査（2）」『実践女子大学人間社会学部紀要第二集』
- 窪龍子・井狩芳子・野田耕、2007「幼児期の生活と遊びに関する研究—幼稚園児の降園後の遊びから「三間がない現象」について—」『実践女子大学人間社会学部紀要第三集』
- 窪龍子・井狩芳子、2008「母親が感じる育児上の「困難」に関する研究（1）—幼稚園と保育園における調査から—」『実践女子大学人間社会学部紀要第四集』
- 窪龍子・井狩芳子、2009「母親が感じる育児上の「困難」に関する研究（2）—幼稚園と保育園における3歳児の母親の調査から—」『実践女子大学人間社会学部紀要第五集』
- 窪龍子・井狩芳子、2010「母親が感じる育児上の「困難」に関する研究（3）—半年後の追跡調査—」『実践女子大学人間社会学部紀要第六集』
- 窪龍子・井狩芳子、2011「母親が感じる育児上の「困難」に関する研究（4）—1年後の追跡調査—」『実践女子大学人間社会学部紀要第七集』
- 窪龍子・井狩芳子、2012「母親が感じる育児上の「困難」に関する研究（5）—2年後の追跡調査—」『実践女子大学人間社会学部紀要第八集』
- 鯨岡峻 2002 『育てられる者から育てる者へ』NHKブックス 938 日本放送協会

付記：長い間、この調査にご協力くださったT保育園とN幼稚園の関係各位と保護者の方々に心よりの謝意を表します。

